会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（高田自治会②）
2　日時	平成 30 年 8 月 4 日（土）14：00～15：00
3　場所	高田自治会集会所
4　出席者	（資源循環課）添田主幹、下舞主任 （環境事業センター）秋山技能労務主任、加茂主任、鈴木主事 （高田自治会②）参加人数：10 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●家庭ごみ有料化を実施した場合、指定袋の単価はどれくらいか。 →他自治体において、２円／L の指定袋が多い。この金額は、ごみの減量が進みやすい単価であり、ごみの減量を無理なく続けられる単価である。 ●戸別収集の必要性を教えて欲しい。 →鎌倉市と逗子市の場合、戸別収集に莫大な経費がかかるため、実施を見送っている状況である。藤沢市の場合、家庭ごみ有料化と戸別収集を実施しているが、収支は赤字になっている状況と聞いている。本市は、家庭ごみ有料化の併用施策として、戸別収集を設定した経緯である。現在、戸別収集を実施した場合の経費を、試算中である。家庭ごみ有料化と戸別収集を実施するか、平成 31 年度に方向性を決める予定である。 ●指定袋の単価、２円／Ｌで戸別収集を賄えるのか。 →この金額は、他自治体の指定袋の単価設定であり、戸別収集を賄うものではない。現在、戸別収集にかかる経費を試算中である。 ●財政の話と、ごみ減量化の話が混同している。環境部の予算を増やしてから、話をするべきである。 ●ごみの分別をもっとアピールするべきではないか。ごみ処理施設に、莫大な経費がかかるのであれば、新庁舎を建てる必要があったのか疑問である。 ●目的が異なる説明を、１つにしている印象を受けた。家庭ごみ有料化で財源を確保する一方、戸別収集を実施し、赤字になってしまったら、実施する意味が分からない。戸別収集は実施する必要がない。集合住宅の場合はどうなるのか。 →目的は両施策とも同じであり、ごみの減量化である。戸別収集を実施している他自治体の場合、集合住宅は戸別収集の対象外としている自治体が多い状況である。 ●戸別収集になると、門を開ける必要があるため、セキュリティ上の問題がある。玄関先に、ごみがあると美観が悪くなる。

	●ごみ減量化の中で、何の品目が減ると想定しているのか。 →課題１で説明した、資源化可能な紙類、プラスチック製容器包装類、未利用食品が減ることを想定している。 ●家庭ごみ有料化を実施したら、子育て世帯や年金生活者に、負担がかかってしまう。国は子育て世帯を支援しているが、市は、その流れに逆行している。弱いものからお金を取る施策は良いとは思えない。 →実施として方向性が定まった際には、負担軽減策について、他市の事例を参考にしながら、制度設計をしていきたい。 ●ごみ減量の結果をもっとアピールするべきである。施策の目的をはっきりとした方がよい。 以上